

美しい山形・最上川フォーラム平成21年度通常総会 議事録

日 時 : 平成21年6月29日(月)
午後1時30分～3時
場 所 : 山形県自治会館 401号室

1. 開会

司会(井上委員)

定刻になりましたので始めさせていただきます。ただ今から平成21年度「美しい山形・最上川フォーラム」の通常総会を開会いたします。はじめに、会長の柴田洋雄からご挨拶申し上げます。

2. 会長あいさつ

(柴田会長)

みなさん、こんにちは。月末のお忙しい中、たくさんの方々にお集まりいただきありがとうございます。これだけ集まっていただけたことを嬉しく思います。

この美しい山形・最上川フォーラムは、設立後8年が過ぎ今年で9年目になります。「継続は力なり」と言われますが、8年間活動していくと社会的認知度や評価も段々高まりまして、後ほど報告がありますが、我々の知らなかった学会から、今年度選ばれた唯一の団体として、全国表彰を受けました。これは非常に驚きましたが、皆様方が本当に努力されてきた成果だと思っています。そういう形でいろんな組織から提案とか連携がたくさんあり、今社会的な新しい動きとして、「新たな公」といわれるのですが、「産学官公民」の連携によるモデル的な組織として我々は位置づけられていると思います。そういうふうな形でこれからも皆さんと一緒に継続していきたいなと思っています。

我々の活動が地に足がついていると理解しているのは、昨今の経済情勢が非常に悪くなっているのはご案内の通りだと思いますが、企業を含めいろんな団体の状況の変化を見ると対前年比40%減から50%減の活動のレベルというのが事実です。我々のフォーラムの活動はその世の中の減少の半分ぐらい、2割減少ぐらいのレベルで対応ができています。それはマイナス20じゃないかと言われるかもしれませんが、全体がマイナス40から50において、マイナス20は抜き出ている。そういうことで我々は今後とも活動に自信を持って進めていきたいと思っています。ご案内のように社会的な様々な状況の変化等もありますので、これから目指す方向については本日皆様からご意見を伺いますが、基本的な考え方としては地に足をつけて、向上を目指すというところです。ボリュームは大きくないかもしれないけど、きちんとどんな変化にも対応できるような活動を進めていきたいと考えております。

本日の総会においても、皆様から忌憚のないご意見を伺いながら進めていきたいと思しますのでよろしくお願いいたします。以上をもちまして、挨拶にかえさせていただきます。

司会（井上委員）

ありがとうございました。次に役員の紹介をさせていただきます。運営委員の方は恐れ入りますが、その場にお立ちくださるようお願いいたします。（会長から役員を紹介）

司会（井上委員）

では、次第に従いまして進めて参ります。総会の議長は、規約第10条第3項の規定により、会長が行うことになっております。柴田会長、議長席にご移動をお願いします。

3. 議事

（1）平成20年度事業実績及び決算

議長（柴田会長）

それでは、議事に入らせていただきます。本日の議事は次第にありますように、第1号議案が「平成20年度事業実績及び決算」、第2号議案が「役員改選」、第3号議案が「平成21年度事業計画及び予算」の3点であります。順次、こちらに従って進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（会場異議なし）

議長（柴田会長）

議事の進行について皆さんにお願いをしますが、発言がある場合は発言席がありますので、皆さんに聞こえるようにマイクを使って発言していただきたいと思います。ご協力よろしくをお願いします。

本日の議事について議事録の署名人が必要となります。議事録の署名人の指名方法についてご意見がありましたらこの場で承りたいのですが、いかがでしょうか。

特にご意見がなければ、事務局にご一任いただくということでもよろしいでしょうか。

（会場異議なし）

事務局（伊藤事務局長）

事務局長の伊藤でございます。議事録署名人につきましては、ご出席いただいております本木勝利さん、六澤善幸さんを提案いたします。

議長（柴田会長）

ただいま提案がありました本木勝利さん、六澤善幸さんのお二人を議事録署名人にお願いしてよろしいでしょうか。

（会場異議なし）

議長（柴田会長）

それではお二人に議事録署名人をお願いしますので、よろしくお願いします。

議長（柴田会長）

それでは、議事に入らせていただきます。第1号議案「平成20年度事業実績及び決算」について、各部長からその場で説明をお願いします。清流・環境対策部会からお願いします。

菅原部会長

清流・環境対策部会の菅原でございます。清流・環境対策部会についての事業実施状況についてご説明申し上げます。

まずその前に、資料にもございますように最上川フォーラム全体といたしまして、最上川の景観を守る独自の取り組みや文化の継承、地域連携の場としての活動を評価していただき、日本水環境学会より「平成20年度水環境文化賞」を受賞することができました。柴田会長より表彰式にご出席いただきました。ありがとうございます。

それではまず、清流・環境対策部会の主要な事業について報告申し上げます。主要な事業が3つございます。1つ目が「身近な川や水辺の健康診断」、2つ目が「美しいやまがたクリーンアップキャンペーン・キャプテン研修会」、3つ目が「第4回もがみがわ水環境発表会」、この3つでございます。これについて説明申し上げます。

「身近な川や水辺の健康診断」は、一斉調査期間を6月7日～15日の間として実施しました。身近な水辺に対する県民の皆さんの関心を高めるため、国土交通省及び山形県のご支援をいただきまして実施しました。90グループ、約1,000名の参加があり、約240地点での調査を実施しました。5月31日に県内4地域で、参加者への説明会を実施し、器材の配布、調査方法について説明しました。調査項目につきましては、例年と同じように、COD、pH、アンモニウム体窒素、亜硝酸体窒素、硝酸体窒素、りん酸体りんでございます。また同時に山形県環境科学研究センターが主体となって実施している「水生生物調査」も一緒に実施しました。

市民団体と国土交通省が連携して行う、全国の「身近な水環境の全国一斉調査」これに参加いたしております。CODのデータについては、こちらに報告させていただいております。

水辺の健康診断の調査結果は、全てのデータをホームページに公表してあります。また、それらをクリアファイルにまとめて参加者に配布しました。

2つ目、「美しいやまがたクリーンアップキャンペーン・キャプテン研修会」の実施です。8月から10月に実施しました。河川や海岸などの散乱ごみの改善を図るために、40グループから参加の申込みをいただきました。参加しデータカード作成に協力していただいたグループには、活動経費の一部を支援しております。また、「クリーンアップおおいしだ in 最上川」や「クリーンアップ・ザ・庄内海岸」等の県内各地の河川・海岸クリーンアップ活動とも連携をはかりました。

この他、地域部会や他団体が実施するクリーンアップ活動との連携により、キャプテン研

修会を開催し、クリーンアップキャンペーンの事前研修、散乱ごみに対する意見交換、参加者の交流等を行いました。平成20年度は8月22日クアハウス基点におきまして、「最上川故里ミュージアム」様が現地の主催となり、45名の参加をいただきました。最上川フットパスのクリーンアップ活動（エコウォーク）、及びごみの分別調査作業を行いました。その後、講演を2つ行っております。「フットパスと地域づくり」について国土交通省山形河国道事務所様から講演をいただきました。また、「最上川に寄せて～県民歌・最上川舟唄考～」としまして、前酒田市立光丘文庫長様より講演をいただいております。

3つ目が「第4回もがみがわ水環境発表会」です。山形県環境科学研究センター様と連携して「第4回もがみがわ水環境発表会」を開催しました。11月22日、遊学館にて約85名の参加がありました。身近な水辺での活動を行う個人・団体が日ごろの活動や研究成果を発表しました。

以上3つの主要な活動について報告申し上げます。

議長（柴田会長）

ありがとうございました。続きまして、最上川文化・地域経済活性化部会について報告をお願いします。

事務局（平野事務局員）

部会長の加藤様が欠席ですので、事務局から代わりにご報告させていただきます。

まず、「やまがた『水辺の四季』写真コンテスト」です。今年度はテーマを例年の桜から四季へと広げ、県内の水辺の四季をテーマとした写真コンテストを開催しました。87点の応募作品の中から、18作品が入選として選ばれました。審査員は、最上川文化・地域経済活性化部会長の加藤延俊様、山形県写真連盟副会長兼会長代行の菅原富喜様、フリーアナウンサーの前川孝子様を務めていただきました。また、表彰式および写真展を、文翔館にて開催いたしました。入賞作品は、絵はがきやポスター等の啓発資料に活用しております。

2つ目に、「さくら物語～夢の桜街道～」を発行しました。第11号より会員同士をつなぐ機関誌としてリニューアルし、会員11名から成る編集委員会を組織して編集いたしました。ここで、掲載内容について訂正です。「さくら物語」第11号の中に「青苧（あおそ）」について記載がございますが、会員の方から誤りがあるとご指摘がありましたので、現在、最上川フォーラムのホームページ上で訂正をしています。大変失礼いたしました。

3つ目ですが、「最上川夢の桜街道推進地域活動の支援」については、「最上川夢の桜街道」の実現に向けて、地域の皆さん、桜守の方が行う桜の植栽・管理活動などを、市町村を通じて支援しました。こちらには株式会社ヤマザワ様より50万円のご支援をいただいております。平成20年度は12市町村で植栽・手入れなどの活動を実施しました。

次の「最上川夢の桜街道づくり技術研修会」ですが、てんぐ巢病等に関する技術研修会を「山形県みどり推進機構」様と連携して実施いたしました。こちらは主に、地域部会が中心となって実施しております。

5つ目の啓発資料の作成については、写真コンテストの入賞作品等を活用して啓発資料、

絵はがき、ポスター等を作成すると共に、ホームページ、メールマガジン、ブログ等の運営によって、当フォーラムの活動に対する理解の向上と会員の拡大を図ってまいりました。

最上川文化・地域経済活性化部会については以上ですが、引き続き地域部会等の方も事務局からご説明させていただきます。

地域部会活動では、活動に必要となる情報や知識の向上のため、地域の特性や会員のニーズを踏まえつつ、各地域部会においてテーマを決めて研修会や研究会を開催しました。実施にあたっては、地域住民や各種団体等が参加できるように配慮して、フォーラム活動に協力していただける団体とのネットワークを拡充してまいりました。

まず、はじめに村山地域部会ですが、3R推進全国大会へのパネル展示ということで、10月24日～26日、山形市ビッグウイングでパネルによるフォーラムの活動の紹介、絵はがき、パンフレット等の配布を行いました。

次に、「桜の維持管理研修会」を、11月に東根市高崎公民館の方と一緒に、石崎山の桜の手入れ方法学習・実践として実施いたしました。こちらは「山形県みどり推進機構」の枝松様を講師としてお招きし実施しました。

庄内地域部会では、「桜見守り隊実技講座」ということで、11月16日に庄内町「響ホール」、および小出沼地内、最上川堤防の桜並木で桜についての講習、手入れの学習と実践を、こちらも枝松先生をお呼びして実践しました。庄内地域部会では3月にも補植作業ということで、地域の方に実施していただいております。

この他に、4地域部会全てにおいて「身近な川や水辺の健康診断」の説明会の運営を行いました。

4番の部会、運営委員会、通常総会の開催についてはご覧のとおりです。

その他になりますが、国土交通省の助成金「『新たな公』によるコミュニティ創生支援モデル事業」に係る取り組みというものを実施しました。上記のモデル事業に「美しい山形・最上川フォーラムによる地域活性化プロジェクト支援事業」として応募し、採択され活動を実施しました。

こちらは白鷹町が取り組む、最上川沿い集落「大瀬」の「未来展望プロジェクト5」を支援するもので、これまでに以下の取り組みに参画・協力しました。また、この事業に係る経費は国土交通省からの助成額110万円の範囲内で支出をし、フォーラムの予算とは区別して予算運営を行いました。7月「大瀬の魅力確認プロジェクト」、10月「大瀬が健康でいきいきプロジェクト」、12月「大瀬の桜の新名所にしようプロジェクト」、2月1日に「まとめの会」、3月21日に「おらだの元気な古里づくり『おおせ博覧会』」を実施したところです。

本日、後ほど15分間の休憩の間に後ろのテーブル上のパソコンで、こちらの活動を取りまとめたビデオを放映いたしますので、よろしければお近くでご覧ください。最上川フォーラムのホームページでも同じ映像を配信中です。

引き続きまして、平成20年度の決算のご報告をさせていただきます。4ページをご覧ください。まず収入の部ですが、会費が625万3,160円、県負担金40万円、県補助金337万1,553円、平成19年度からの繰越金150万円、夢の桜街道積立金より67万8,701円、6番の諸収入として備考欄のとおりいただきました各ご支援と預金利子を合わせまして、56万9,027円

上げております。従いまして合計は、1,277万2,441円となっております。

続きまして支出の部ですが、運営費459万4,774円、大きな2番の事業費571万5,306円。こちらの2番の事業費は①から⑨の内訳となっております。3番の予備費ですけれども、こちらは最上川フォーラムが団体として加盟しております「最上川流域観光交流推進協議会」の会費等に係る支出となっております。この他に夢の桜街道積立金に100万円、合計いたしまして、1,131万5,531円となっております。差し引きといたしまして、145万6,910円を平成21年度への繰越金とさせていただきます。

また、各積立金ですが、最上川フォーラム基盤強化積立金といたしまして、平成20年度期末残高200万6,492円、2番の最上川夢の桜街道積立金といたしまして100万円となっております。4番の基金につきましては、1番の山形市のコミュニティファンドに4万5千円、やまがた社会貢献基金に2万3,989円ご寄付をいただいております。以上、簡単ですが平成20年度決算の説明を終わります。よろしくお願いいたします。

議長（柴田会長）

ありがとうございました。続きまして、監事から監査結果について報告願います。

佐藤監事

はい、申し上げます。平成20年度収支決算書に基づき、帳簿及び証拠書類その他を精査した結果、相違ないことを認めます。また、平成20年度事業実績書に基づき、事業の内容について監査した結果、適正であったことを認めます。以上、報告申し上げます。平成21年6月18日、監事佐藤勝見。

議長（柴田会長）

ありがとうございました。ただいま第1号議案の平成20年度事業実績及び決算についてそれぞれの担当から説明がありました。これについて皆様から、ご意見、ご質問はありませんでしょうか。

（発言者）

村山の「最上川故里ミュージアム」代表の今野と申します。昨年度の活動を振り返って各部会長さんから報告がありましたので、今年度の活動につないでいくことを前提にして、2、3点意見を申し上げたいと思います。

まず1つは、写真コンテストについてです。これは、私は続けて欲しいと思っています。なぜかという、山川で遊んでいる、または労働している等々の方で好んで撮影している方々の期待に応える事が必要ではないかと思うからです。お金の問題と、段取りとか手間隙などを考えた場合に、今年度は実施しないというのは簡単ですが、やはり活動は継続することに大変意味があるわけですから、是非続けていただきたいと思います。

もう1点、これは私どもの仲間からも言われていることですが、ボランティアで写真コンテスト展示準備をする等のために、多くの方々を呼び込むような体制が極めて不十分である

と思います。私どもも6人で、午前と午後に分かれて1週間程度（写真展のスタッフとして）参加をさせていただきました。他に（ボランティアでスタッフとして協力できる方が）あまりいないのです。取り組みの仕方を含めて、もう少し山形市内などを中心に地域部会の機能があるわけですから、要請をするべきところは要請して準備態勢を整えていかないと、2人、3人の事務局だけが容易でない、ということになっています。

それから、文翔館でやったこと自体はヒットですが、これからもっと続けていくことを前提とするならば、JRの新幹線の主要駅に、今10枚ほどある「最上川フォーラム」の普及啓発宣伝の大きなパネルがありますが、あのパネルぐらいの大きさにて入選作品の写真を公開していく、このような取り組みなども是非検討していただきたいと思います。目に見える形で、写真コンテストに応募した方々を激励しながら、山形には優れた景観、さらには歴史が依然として残っているのだと、つまり「美しい山形・最上川」というのをしっかりと啓発・宣伝していくことが必要ではないかと思いました。是非、ご検討いただきたいと思います。

また、私は最上川フォーラムを地域の活動家や代表者の方々が、しっかり支えていくとするならば、清流・環境・文化・活性化として、もう一度各部会というものを、かつての四部会体制に戻していただきたいと思っています。これは、色々組織の関係もありますから、容易ではないかもしれません。しかし、運動の広がりや、それぞれの活動団体の交流のためにも、これまで総会を含めた機関の中で相談をしてきたそれぞれの部会が、主体性をもっとしっかり作り上げていく、そういう時期に来ているのではないかと思うのです。

なお、最上川はご承知の通り、一県一川の、本当に全国的にも珍しい県内を縦断する川です。最上川は一つなのです。邪魔はしないけれども、そのネックになっているのが県の4つの合同庁舎であり3つの支庁舎であり、35の市町村です。そのため、なかなか全体的な活動が進まないというのが率直な状況だと思います。しかし、最上川については、これからも一層、現地の人とともに調べていくことが必要です。さらには、清流問題が一番大きな課題でありますから、もっともっと宣伝をしながら、一人ひとりの県民の心に響くような活動をしていかななくてはいけない。私はこういう会議は、自治会館とか街の中心ではなく、最上川のほとりでやって欲しいです。身近な地域でやれば、必ず地域の方々に響きます。是非、のぼり旗を立てるかどうかは別問題として、集落や公民館、自治体、国土交通省の建物もあるのですから、そういう川に近い場所を私は使って欲しいと思います。そして、今日も、明日も、明後日も、最上川の水の状況がどうなっているか、一体、どこにいつも不法投棄がなされているのか、というのを参加者に見ていただく。そして活動の交流を行い、提供された大事な課題について意見を出し合う。こういったことを是非、会合の場所でできるような工夫をお願いしたいと思っています。以上です。

議長（柴田会長）

ありがとうございました。その他ご質問、ご意見はないでしょうか。

それでは、ただいまのご意見も、新年度の予算・事業計画書の中で活かしてもらえればありがたいと思います。その他はないでしょうか。第1号議案について、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

(会場拍手で第1号議案を承認)

議長(柴田会長)

それでは、異議はないということですので、第1号議案「平成20年度事業実績及び決算」については提案どおり決定させていただきます。次に第2号議案の「役員改選」について、事務局から説明をお願いします。

(2) 役員改選

事務局(伊藤事務局長)

第2号議案「役員改選」につきまして、ちょうど改選期にあたりますので、ご提案申し上げます。

8ページをご覧くださいと、現役員が載っています。この中のご退任される方がいらっしゃるわけですが、特に監事をされました佐藤勝見さんには大変長い間務めていただきまして、本当にありがとうございました。

前ページ、7ページに戻っていただきまして、こちらが21年度から2年間ということをお願いいたします役員の方でございます。新任の方をご紹介しますと、右側に丸印がついております。村山地域部会長の渡邊様、それから最上地域部会長の小松様、それから、本間利雄設計事務所取締役相談役の本間様、それから新庄市長様、川西町長様、新たに監事といたしまして、山形銀行のくらしと経営の相談所長の小林様、それから寒河江市長の佐藤様です。以上が新任ということで、次期役員を一覧のとおりご提案させていただきます。

議長(柴田会長)

ありがとうございました。第2号議案の「美しい山形・最上川フォーラム」次期役員について7ページにあるとおりですが、これについてのご質問やご意見はありませんでしょうか。

特に意見の無いようなので、原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

(会場拍手で第2号議案を承認)

議長(柴田会長)

それでは第2号の議案にあるように、平成21年度通常総会より2年間、役員を今提案させていただいた皆様をお願いいたします。それでは、ただ今決まりました役員を紹介させていただきます。

井上委員

では、新役員の紹介をさせていただきます。(名簿順に役員を紹介)

議長(柴田会長)

ありがとうございました。本日出席されていない方が数名おりましたけれども、名簿のと

おり柴田より依頼しておりますので、このメンバーで宜しくお願いします。改選については、最上川フォーラムのルールがありまして、例えば、国土交通省の方とか、県の方とか市町村の方（順番で）とか、そういった方々については事務局で選んでおります。それ以外の方々については部会長さん、副部会長さん含め、これまでの活動経験のある方の中から選んでいます。役員だけがこの会を運営していくのではなくて、皆さん自身が運営委員的な存在となり、そして役員の方々がそれをまとめるということで、ぜひ会員全員参加で進めていきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願い致します。

それではこの新役員の中で、今年度からの役職についての協議をしなければいけません。15分くらい休憩を挟んで、その間に臨時の運営委員会を開催します。その中で会長及び副会長の推薦をするという対応がありますので、15分後に議事を再開いたします。新しい役員の方は、臨時運営委員会の会場へご移動下さい。

—臨時運営委員会をはさむ—

議長（柴田会長）

それでは、議事を再開いたします。ただ今の運営委員会での協議について、事務局から報告をお願いします。

事務局（伊藤事務局長）

会長には柴田さんが運営委員会にて互選され、副会長には佐藤五郎さんが会長より指名されました。

議長（柴田会長）

ただ今の報告につきまして、ご質問やご意見はありませんか。

異議ないようですので、会長および副会長については、運営委員会の協議のとおり決定させていただきます。

（3）平成21年度事業計画及び予算

議長（柴田会長）

次に、第3号議案「平成21年度事業計画及び予算」について、各部会長からその場で説明をお願いします。それでは、清流・環境対策部会から順にお願いします。

菅原部会長

清流・環境対策部会の事業計画について説明いたします。その前に、最上川フォーラム全体として以下の3点を上げております。1つ目は、活動基盤を強化するため、特段の会員増強に努める。2つ目は、ボランティアによる人員面の支援の他、各種助成等を活用し、事務局体制の維持・強化に努める。3つ目は、活動の拡大・周知を目指し、山形県文化環境部等の関係機関とより一層の連携を図る、この3点です。

それでは、清流・環境対策部会事業計画についてご説明いたします。まず、「身近な川や水辺の健康診断」ですが、100～120 団体、調査地点 300 地点を想定して実施いたします。実施検討会で詳細を 4 月に決定しております。報告資料作成は、今後助成金等の活用も検討し、可能な範囲で実施したいと思っております。また、過去 7 年間の継続団体等の表彰を検討しております。

次に 2 つ目の「美しいやまがたクリーンアップキャンペーン」ですが、50～60 グループの参加を想定して実施いたします。1 グループ当たり 10 人以上=5 千円、10 人未満=3 千円の経費を想定しております。これは傷害保険代、準備経費に対する支援となっております。また、キャプテン研修会についても実施を検討いたします。報告資料作成は今後助成金等の活用も検討し、可能な範囲で実施いたします。このクリーンアップについて、補足説明・提案がありますので、国交省の方にご説明いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(横山氏 (前内委員代理))

最上川沿いには多くの散乱ごみがございますが、五百川峡谷付近の大量のごみにつきましては、実は、朝日町が処理をしております。ごみにつきましては、当然ながら下流から上流には流れないということで、間違いなく置賜から流れてきたものということになります。

ちなみに、最上川については 7000 平方キロメートルぐらいの面積がございます、ちょうど上郷ダムのあたりで 2000 平方キロメートル弱ということですから、大体 1 / 4 ぐらいの面積でございます。また、最上川流域に生活しているのは 100 万人でありまして、置賜地区の小国町を除いた分が 23 万人ということで、ほぼ人口面積の 1 / 4 ぐらいの規模にあたるということになります。

それでは、ご説明に入らせていただきます。まず目的でございますが、歴史的文化的価値を持つ最上川の価値を損なう、というのがごみでございまして、この問題についてはまだ慢性化をしているということです。最上川フォーラムを始めとして河川愛護について意識の高い方々によりまして、美化活動が行われておりますが、ごみが後を絶たないのが現状です。

そこでご提案です。(資料の説明に入る。) まず、これまでは「拾う」ということを主体にしてやってきたわけですが、これからは「捨てない社会」というのを築いて、最上川を日本一きれいな川にするというのが目標・目的でございます。

課題でございますが、写真にもあるようにごみの発生源は家庭、農地、森林であると推察ができます。また、ごみの発生範囲というのは当然ながら広範囲だということが類推できます。

続いて、取り組みの方向性ということで、実は先ほど話をした上郷ダムのある朝日町を含めて、いわゆる五百川峡谷といわれている前後の地域の市町長さん、あるいは山形県さん等ともお話をしまして、ここをケーススタディの場所として、今後より掘り下げて(ごみ対策を)展開してはどうかということでございます。

まずはその発生源対策でございます。これまでお取り組みいただいた方々を中心に行うことによって輪を広げていくということでございます。

2 つ目でございますが、最上川美化活動ということで、行政の皆さん含めフォーラムを中

心とした多様な主体で展開をしていきます。

3つ目でございます。ごみの他に、流木については単に焼却するだけではなくて、分別をしてさらに木質ペレット化といった再資源化も検討の上、展開をしてはどうかということでございます。

4番目の今後の進め方でございます。最上川フォーラムの運動「クリーンアップキャンペーン」というのをはじめとして、ノウハウは非常に良好でございます。五百川峡谷をモデルにして、きちんと把握あるいは浸透させて、最後にはこのエリアの4倍（の広さ）を持つ最上川全体での取り組みとして行きたい、というねらいでございます。私の方から以上になります。

（菅原部会長）

はい、ありがとうございました。国土交通省さんから、具体的な最上川のごみ対策についての新たな展開についてご説明いただきました。

それでは、清流・環境対策部会の事業について引き続き説明させていただきます。

3番目に、「もがみがわ水環境発表会」というのがあります。山形県環境科学研究センターの方に協力いただきまして、実施時期や内容を検討中でございます。今年度も11月頃に開催予定でございます。

以上、清流・環境対策部会の事業計画です。

議長（柴田会長）

はい、ありがとうございました。では、続きまして、2番目の最上川文化・地域経済活性化部会についてお願いします。

事務局（平野事務局員）

事務局から代わりにご説明させていただきます。最上川文化・地域経済活性化部会では4つの事業を計画しております。

1つ目は、「さくら物語～夢の桜街道～」の発行ということで、今後助成金等の活用も検討して、継続的な発行を今年度も目指してまいります。21年度の編集委員や編集体制のあり方については、平成20年度の編集委員を中心に検討していく予定であります。

2つ目の「最上川舟運文化シンポジウム」は、会員の方に中心となっただき、企画準備・運営をしていく予定であります。

3番目の「写真コンテスト」につきましては、シンポジウムとの隔年開催ということになっておりますので、平成21年度は実施しないということで予定しております。

4番目の「最上川夢の桜街道づくり」ですが、「日本さくらの会」や苗木を提供する他の機関との知識共有・連携を図ってまいります。市町村に対する支援事業については、市町村への要望調査を行った上で、今年も実施する予定であります。桜守を育成するための技術研修会については主に地域部会事業として実施を検討しております。

以上ですが、引き続き、その他の事業についても事務局からご説明させていただきます。

「地域事業」については、地域の会員・団体の方に中心となっていただき、自分たちの地域活動テーマに沿って実施をしていただく、というふうに考えております。

4番目の「会議」につきましては、本日の総会他、ご覧の通り会議を予定しております。

5番の「その他」ですけれども、各種助成事業・基金への応募やその活用を積極的に行っていくということで、『新たな公』によるコミュニティ創生支援モデル事業、「やまがた社会貢献基金」「山形市コミュニティファンド」「みちのく国づくり支援事業」など、積極的に活用を検討しております。

このまま引き続き、平成21年度の収支予算についての説明をさせていただきます。11ページをご覧ください。

平成21年度の収入の部になりますが、会費560万円、県負担金40万円、県補助金246万円、繰越金1,456,910円、夢の桜街道積立金より100万円、収入にはみちのく国づくり支援事業等上げまして、1,001,090円です。従いまして合計は11,918,000円です。

次、支出の部になります。まず、運営費532万円。こちらの内訳は、需用費や役員費など、ありまして、(1)の運営費に280万円、(2)の事務局費、事務局員給与、社会保険料等を見まして252万円をみております。

次の大きな二番の事業費ですけれども、636万円、内訳は、①から⑩の通りになっております。

そのほか予備費に238,000円ありまして合計が11,918,000円となっております。

続きまして積立金ですけれども、「フォーラム基盤強化積立金」として2,006,492円。次の基金のところの「山形市コミュニティファンド」45,000円、「やまがた社会貢献基金」のところ23,989円、また「夢の桜街道積立金」は0円になっております。以上となっております。

議長（柴田会長）

はい、ありがとうございます。ただいま第3号議案の21年度の事業計画、および予算について各部会および事務局から説明がありましたけれども、皆さんの方からご質問・ご意見はないでしょうか。その中に、国土交通省の方からごみ問題の対策について説明がありましたので、そこを踏まえてご質問・ご意見を出していただければと思います。

(発言者)

本間でございます。国土交通省さんのごみ対策について聞きたいのですが、先だって山形市の市長さんとある会合で一緒になりまして、山形市でもかなりごみを捨てられる場所が決まっております。監視カメラを設置するという声や議案を要請したのですが、一部政党から、「これはプライバシーの侵害になるのではないか」ということで、クレームがついたということです。各市町村の取り組みで、監視カメラの設置という動きが今どうなっているのか、その監視カメラの設置に対して、国土交通省さんの方で、財政的な支援、あるいはその運動について何らかの形で応援していくという感じがあるのだろうか、ということをお聞きしたいと思います。

議長（柴田会長）

はい、ありがとうございます。何かご意見のある方、どうぞ。

（横山氏（前内委員代理））

国土交通省の方でも、カメラを最上川沿いに設置しています。上流だけで30基ほどございまして、ほぼ、夜間以外は撮影可能です。ただ、やはりプライバシーの問題があるので、録画等は今のところはしてごさいません。最上川以外のところでは、市町村あるいは県でカメラを設置して対応しているところでもございすけれども、なかなか、カメラを設置しても（捨てる）場所が変わる、あるいは鳥居をつけて、「ごみを捨てない」といった啓蒙活動をやっているのですが、今度は鳥居がついてないところに捨てるという「たちごっこ」のようになってしまいます。最終的にはモラルの問題なのかなと認識しております。ということで、我々のカメラは少なくとも日中であれば、見ることは可能でございすけれども、今のところは、各市町村さんに対し、「カメラを設置すべき」と（指導すること）は考えておりません。

議長（柴田会長）

ありがとうございます。その他、質問ございすか。

（発言者）

村山の横尾といいます。3点ほど質問をさせていただきます。

まず事業計画ですが、どうも代わり映えしないと思います。特に清流・環境対策部会の方は、ここ数年まったく変わりません。何か特色のある運動はないものでしょうか、と思ったのがはじめの質問です。

2番目ですが、私は3年前から言っているのですがですけど、山形新聞さんの「さくら回廊」というまいコミュニケーションの取り方というのは、その後どうなったのでしょうか。

3つ目、今年度事業計画の最初に、「フォーラムの活動基盤を強化するため、特段の会員増強に努める」と書いてありながら、具体策がまったくありません。県の予算はどんどん削られて数年後にはなくなります。JTBさんはすでに止められてしまいました。ヤマザワさんだっいつまでご支援いただけるかは分かりません。会員も減っている。そういう中において、本年度事業の中でどうやって会員増員につなげていくのか、たしかに金融機関さんとかにポスター掲示したりしています。でもこれだけでは、毎年と同じことですよ。どうするのですか、ということをお聞きします。

もう一つ、国土交通省さんにお聞きします。昨年「最上川検定」というのを実施されましたが、今年以降はどうなるのでしょうか。

議長（柴田会長）

はい、ありがとうございました。

菅原部会長

率直なご指摘をいただきました。ある意味代わりばえがしないということについてのご指摘はもっともだと思います。内心気付いていたところもございます。しかしながら、「継続すること」が大切だという部分もかなりあるのです。清流・環境対策部会の3つの事業は、どれも継続しなければならない事業ではないかと思えます。これを継続してきたからこそ、それなりの評価をいただいていたという部分が多いのだと思えます。

では、水の検査をした結果に基づいて何かするのか、次の方向まで何かするのか、ということになると、ある意味フォーラムには手に余るということがあります。予算等がございしますので、そこへ至るまでの範囲が、フォーラムの守備範囲ではないか、というふうには私は理解しています。正直代わりばえはしないけれども、地道にやっていくことが大切ではないかというふうに思っております。

議長（柴田会長）

では、最上川検定についてお願いします。

（横山氏（前内委員代理））

最上川検定につきましては、一昨年度実施をしたわけですが、大体7割位の方が合格されたということがございます。その後、若干内容の充足等を検討しておりまして、昨年度、学識経験者の意見を踏まえながら内容について検討しました。

今年度については、のちほど説明があろうかと思いますが、ほぼベースの部分が出来てまいりましたので、最上川フォーラムさんと連携をしながら第2回の検定を進めたい、というふうに思っております。

議長（柴田会長）

その他のことについて私から申し上げます。山形新聞さんの「さくら回廊」との連携ですけれども、山形新聞さんの一番得意・目的とするところは「さくら回廊」で桜を新しく植えることです。けれども、「その後の維持管理のほうで困っている」と聞いているものですから、桜を植えた後の維持管理のところについて、フォーラムでは市町村と連携をとりながら事業を行っております、ということをお話しております。

以前ですと、こういう話し合いにも応じない状況だったのですけれども、最近は、聞く耳を持っていただけたということで、連携は少し進んでいるのではないかなと思っております。我々としては、市町村を仲立ちとして山形新聞さんとフォーラムが連携しながら事業を進めたいと考えますが、そのときには「桜を植えたのは山形新聞さんだ」と明確にします。事業としてもすごいお金と時間をかけていらっしゃるから、それを評価するという形です。そして、維持管理のところではフォーラムが努力するという姿勢で進めばうまくいくかな、ということで、それは今後とも継続していくつもりでおります。

それから会員の増加については、今までの金融機関を通しての募集をしてきたわけですが、先ほど言いましたように、山形新聞さんとの関係がスムーズにいくとフォーラムの

活動が山形新聞の記事を通して広まってくるのではないのでしょうか。これまでフォーラムの活動を山形新聞さんが記事にしなかった、ということはないと思いますが、温かい目で見ていただければ記事の回数が増えてくるのかな、ということで、県民の皆さんにフォーラムの活動をもっと身近に思ってもらえとすれば、会員の増加につながるかなと思っています。

それと、今まで金融機関の窓口で、いろいろお願いしてきましたが、商工会とか商工会議所とか、各市町村や県担当等に対しても、フォーラムの活動を広めて、入会を求めていると考えております。

それともう1つ、これはまだ具体的な段階ではないのですが、企業の方々がフォーラムに参画されて地域貢献をした場合に、その企業が「地域貢献する企業ですよ」ということを認証として出したいと思います。将来、フォーラムとしては、第三者も入れた形で認証ができる形にすれば、企業もフォーラム活動を「事業としてプラスになる」というふうな認識を持つと思います。そのため、企業の方が、「喜んでフォーラムと一緒にいる」というような環境を作っていきたい、と思っています。

先ほども言いましたように、「産学官公民」の連携がフォーラムの命であり、それが「新しい公」であるという中で、企業がちょっと弱いなというふうに思っています。ですが、社会の動きの中で「地域に貢献する企業」が高く評価されておりますので、その認証をどこが出すかということについては、フォーラムは適正な機関のひとつと自負しております。その辺のところを今後進めていくということで、会員の増加にも努めていきたい。

先ほどの質問については以上でございますが、よろしいでしょうか。

議長（柴田会長）

その他のご質問とご意見はないでしょうか。

最初の第一号議案の中で、写真コンテストについて質問がありました。今回も最上川文化・地域経済活性化部会の中で、この写真コンテストは隔年開催なので21年度は開催しない、という形になっております。これについては今のところ最上川フォーラムとしてはこの通りなのですが、聞くところによると21年度は、フォーラムとは別の団体で写真コンテストをおこなう可能性があるということで、この写真コンテストをおこなうためのノウハウをフォーラムとして提供してくれないかという打診がありました。

我々とすれば、最上川にかかわる写真コンテストを他の団体でも実施してよろしいのではないかと、そのノウハウを提供するつもりだということをお伝えします。近いうちにコンテストが行なわれるかどうかという発表があるのではないかな、と思っています。

写真コンテストはフォーラムが独占でやる必要はなくって、要するに先ほどのご質問にありましてとおり、写真を愛する、最上川を愛する人達が発表するチャンスを継続して提供していくということであれば、今のような形でもさきほどのご質問者のご意向に沿えるのではないかと考えております。

議長（柴田会長）

その他に何かありませんでしょうか。

フォーラムに関わることや、新年度事業 についてその他、会員の方々からこういうことをやりますよ、という報告等があればいただきたいのですが。

それでは特になければ、第3号議案の「平成21年度事業計画・予算」については、原案の通り承認していただいたということによろしいでしょうか。

(会場拍手で第3号議案を承認)

4. その他

議長(柴田会長)

ありがとうございました。では続きまして、「その他」のところで会員の皆さんから何かご報告いただくことがありましたらどうぞ。

(発言者)

私が住んでいる三難所・隼の瀬は、今整備をして、ライトアップして夜間でも眺められるということを試行的に、もう2、3年来、試行・実施してまいりました。

私は、230km近い最上川を支えているのは県の間人だと思います。432の支川がありますが、私が小さかった昭和の時は約600あったそうです。今は、川そのものの生命力が落ちているというか、(以前に比べて)約100近くの川が枯渇しているという状況です。

私は、その川の現場を見てしっかり物事を判断すべきだと思っているのです。率直な話、なぜ運営委員会から「舟運文化」だ、「それは何だ」、「こんなことはどうなるのだ」、「こんなことを知りたい」という提案がなぜないのか、と思うのです。

いつも書かれているのは、それぞれの会員の主体によって、物事を考えて、実行するという、こういうくだりですね。置賜から庄内まで各地域部会を確立しましたが、会議をするだけでも大変なのですけれども、集まって相談をして、なんとかその活動を積み上げていこうとして頑張っている姿を、私は、良くわかります。

けれど、正直言ってあまり情勢に関係がありません。というのは、例えば飛島のクリーンアップ作戦や、13の海岸地域でのクリーンアップ行動という海側の取組みが、内陸、置賜の活動の展開につながらないのか、ということです。

三難所周辺の集落は、今17です。ご承知のとおり、限界集落です。10年前に27戸だったのが現在は20戸を切っています。萱葺きも7つしかないのです。それでもなおかつ、私達は毎年1回、流れている五十沢川を眺めながら「萱葺きの里」を呼びかけながら歩いています。

今日お集まりの方々が、みんなで考えることだと思っているのです。ふるさとの様々川での活動が、みんな、最上川本線の入口で留まっているのです。関係する人はわかるかもしれないけど、支川での個々の活動がほとんど知られてない。活動する方々をたくさん作るということが、最上川フォーラムの一番良いところではないでしょうか。

やはり河川に出かけて、自分の地域の川についてみんなが真剣に考える。やはり、そういう地域構成を展望していかないと、活動はなかなか進まないと思います。

例えば、クリーンアップ活動のときに、最上川フォーラムの名前を大きくクローズアップ

して、各4つの地域部隊に、幟旗を預けて、集中的に8月から10月で最上川フォーラムの統一活動ということ思い切って展開する。こういうことをしなかったら、なかなか県民から理解されるということは、私は難しいと思っているのです。

それから最後になります。毎年4年近く私どもでは、毎月一回、その川の現況を見つめることとあわせて、最上川本線のごみ問題も中心にして、「エコウォーク」ということをやってきました。一昨日も村山のジュンサイ沼、無人駅で降りて歩いて大石田まで行きました。毎回集まる方の8割は女性です。最上川フォーラムがどうやって女性の参加の受け皿を作って結集していくか、ということは非常に大きな課題だと思っております。女性中心の活動体というものを、ぜひ検討いただきたいなと思います。以上です。

議長（柴田会長）

はい、ありがとうございました。

いろいろな団体がいろいろなやり方で活動を広げていますので、その方向性と手段はそれぞれの団体で特色があるのではないかと考えています。我々にとって参考になるものは積極的に取り上げていきます。ただ、我々のフォーラムでは、会議や様々なところからの提案を会全体として取り入れて進めていこう、要するに「上から下に」という感じはやめるというのが方針であり、会の特色だと思っております。

ですから、今いろいろお話ありました、女性の参加は好ましい、ということは我々もそう思っています。しかし、どうすれば女性がより参加できるのか、ということについてもこの会の運営に問題があればご指摘をいただければいいのですが、「女性が参加しないのはけしからん、もっと声をかけろ」、ということだけだと解決策にはならないな、と思います。このような意味でも、できるだけ活動している皆様のご意見を踏まえながら進めていく、ということが大事であると考えています。他に、何かありますでしょうか。

事務局（平野事務局員）

事務局から簡単にご報告がございます。12ページをご覧ください。

「夢の桜街道」キャンペーンの実施状況及び会員状況についてはご覧いただくとおりです。また現在、最上川フォーラムで3つの助成金に応募しておりますのでご説明いたします。

①の「みちのく国づくり支援事業」では、a. 清流化事業、b. 最上川文化の継承事業ということで「最上川検定」、c. 最上川の利活用による地域経済の活性化事業ということで「最上川夢の桜街道づくりの全国にむけた発信」ということで提案しております。

こちらは採択になりましてaからcそれぞれに50万円つきまして、150万円いただけることになっております。aとcの予算、合計100万円については、平成21年度のフォーラム予算に繰り入れてあります。bの50万円は「国土交通省山形河川国土事務所」様と連携した事業ということで、フォーラムの予算とは区別して運営をしていきます。

②の『『新たな公』によるコミュニティ創生支援モデル事業』ということですがけれども、昨年度の大瀬の事業を川下地区というところに展開するという内容で提案をさせていただきまして110万円、今年も採択になりました。こちらフォーラムの予算とは区別をして運営し

てまいります。

③の「山形県公募型雇用創出事業」ですけれども、こちらは事業名「美しい山形・最上川フォーラムによる『美しい山形づくり運動』推進事業」ということで提案を致しました。概要ですけれども、平成21年度に1名、22年度から23年度に2名、事務局員の方を雇用して、「美しい山形づくり」を掲げる県民運動の推進・拡大をはかる、という内容で提案を致しました。こちらが、申請額が3年間の合計で24,854,000円ということで採択になりまして、予算を補正して対応してまいりたいと思います。

以上、早口で申し訳ありませんが、事務局からのご報告です。

議長（柴田会長）

はい、ありがとうございます。各種助成事業については今説明があったように採択されているということです。先ほども言いましたように、今の社会の状況が厳しい中での採択ですから、皆様のご協力と、今までの活動の成果が反映されているのではないかなと理解しております。そういう意味で今後ともフォーラムの活動については、自信を持って進めたいなと思っております。

この点につきましては、ご質問はないでしょうか。

なければ、「その他」についてはご了承いただけたということで、以上を持ちまして議事を終了することにしてよろしいでしょうか。

（会場拍手）

5. 閉会

司会（井上委員）

これもちまして、平成21年度「美しい山形・最上川フォーラム通常総会」を終わらせていただきます。長時間にわたりまして、ご審議ありがとうございました。